

みやもとちようはちまんじんじや  
宮本町八幡神社

「新編武蔵風土記稿」に『八幡神社、宿の鎮守なり昔元弘中、新田左中将義貞の家臣春日部につたさちゆうじようよしさだ治部少輔時賢なるもの当所を領し、多年相州鶴岡八幡を敬信し、つるがおか屢しばしば靈護を蒙りしゆへ遥拝のすなわち為はるか則よつ鶴岡を写してここに勧請すと云因て昔は新方の惣鎮守にして社宇莊嚴を尽せしに其後そなわ遙すこぶるの星霜を歴て屢盛衰ありしか、今は社殿備り頗よ旧觀に復す』と記されている。

所在地は粕壁字浜川戸五五九七（宮本町）である。  
かすかべ はまかわど

八幡神社の縁起は右の記述の通り、元弘年中（一二三二～一二三三四年）に領主春日部氏が相模国鶴岡八幡宮に勧請したものと伝えられている。境内には春日部氏の居城せしやかたあと館跡も残され、奥殿の脇に当時を偲ばせる土塁等の残痕がある。  
かんじよう

この神社は、春日部氏の領地である新方領四十余郷（粕壁・豊春・武里・平方・新方・増林・大袋等）の総鎮守であったので、現在も参道の銅製の鳥居には「新方莊総社」の掲額がある。  
おたぶくろ  
とよはる たけさと ひらかた にいがた ますばやし  
しやうせうじや

また、境内には旧本殿が現在の本殿のうしろの高台に安置されている。朱塗りで、柱間一・六  
の一間社で向拝を付した茅葺、流れ造りの建物は室町時代の流れをくむ桃山時代の建物とのこ  
とである（現在、市文化財に指定されている）。

社前にある御神木の銀杏については、元弘年中に銀杏の枝が飛来して一夜のうちに成長して参  
詣人を驚かしたという伝説がある。このことについては天保十一年に書かれた「氏子連名帳」に  
記されている。現在、八幡神社が所蔵している金泥きんでいの鶴の子双紙で出来ているものである。

この神社は明治六年「郷社」に列格され、昭和二十四年、宗教法人法により、「春日部八幡神  
社」となった。

なお、参道入口の左角に「伊勢物語」で有名な業平の詠みし「都鳥」の歌と八幡神社の故事を  
伝える碑が建てられている。選者は正三位千種有功である。

初出「広報かすかべ 昭和五十二年二月号」市史編さん室だより